

第 35 回 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会（2019.11.8）および遺伝子組換え実験安全研修会「ゲノム編集生物の各機関での取扱について」（2019.11.9）（千葉）参加報告

表記総会と研修会に参加しましたので簡単に報告をします。

総会（11月8日、金）

- 1) 新規会員等の参加承認
 - 2) 文部科学省施策説明
 - ① カルタヘナ法について（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課）
 - ② 共同利用・共同研究体制の強化・充実について（文部科学省研究振興局 学術機関課）
 - 3) 事業報告
第 111 回 遺伝子組換え実験安全研修会
 - 4) 委員会等報告
 - ① 幹事会
 - ② 広報委員会
 - ③ 組換え生物等委員会
 - ④ 教育機材ワーキンググループ
 - ⑤ Gene Drive ワーキンググループ
 - ⑥ 続・ゲノム編集ワーキンググループ
 - ⑦ 遺伝子組換えカビ・キノコ・コケの拡散防止措置ワーキンググループ
 - ⑧ 実験計画書書式・審査検討ワーキンググループ
 - ⑨ 将来構想ワーキンググループ
 - 5) 決算報告
 - 6) 事業計画、予算案
 - 7) 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会の将来構想について
 - 8) 次回安全研修会
 - 9) 次回当番校
- その他
- 1) 大学連携バックアッププロジェクト（IBBP）について
 - 2) その他

- 1) 新規会員等の参加承認では、以下の正会員、企業会員、暫定会員、大会が提案・承認されました。

正会員：日本医科大学、城西大学、岩手大学、熊本保健科学大学、兵庫医科大学

企業会員：住友化学バイオサイエンス研究所、株式会社バイオテック・ラボ
暫定会員：酒類総合研究所

大会：ロート製薬

- 2) 文部科学省施策説明

1 カルタヘナ法について、では、カルタヘナ法の背景、第一種使用等、第二種使用等、運搬（事故事例が多い）、保管、大臣確認について概要が説明され、次いで事故事例が紹介されました。また、ゲノム編集で作成された生物の取扱について、議論の経過との通知の内容が説明されました。

研究段階におけるゲノム変種技術の利用により得られた生物の使用等に係る留意事項について（通知）

<https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n2189.pdf>

2 共同利用・共同研究体制の強化・充実について、では、令和2年度概算要求のポイント（研究「人材」「資金」「環境」改革と痔額改革の一体的展開、大学等の基盤的経費を充実しつつ、評価や客観的指標に基づくメリハリある配分により改革の推進を図るとともに高専の高度化・国際化を推進）、共同利用・共同研究拠点の強化、学術研究の大型プロジェクトの推進について説明が行われました。国立大学改革方針として、徹底的な教育改革、世界の「知」をリードするイノベーションハブ、世界・社会との高度で多様な頭脳循環、地域の中核として高度な知を提供、強靱なガバナンス、多様で柔軟なネットワーク、国立大学の適正な規模、が説明されました。最後にその他として、植物、土等を日本へ輸入する際の植物検疫の必要性について説明が行われました。

- 3) 事業報告 第11回遺伝子組換え実験安全研修会の報告（参加状況、概要）が行われました。
- 4) 委員会等報告では、幹事会について開催状況と検討内容、特に第37回以降の総会と大学遺伝子協の将来構想について説明が行われました。広報委員会については、ホームページ掲載等の活動、活動報告書「遺伝子」の全アーカイブ化が説明されました。遺伝子組換え生物等委員会では、組換え生物等委

員会通信の状況、カルタヘナ相談窓口の内容が説明されました。教育素材ワーキンググループについては、初心者教育用英語教材の必要性が高いと考えられ作成を進めることが説明されました。Gene Drive ワーキンググループでは、会議開催や検討概要（情報収集）について説明がされました。続・ゲノム編集ワーキンググループについては、研究段階におけるゲノム変種技術の利用により得られた生物の使用等に係る留意事項について（6月13日通知）、翌日の安全研修会について説明が行われました。遺伝子組換えカビ・キノコ・コケの拡散防止措置ワーキンググループについては、開催概要、組換えアカパンカビ拡散防止措置の例を遺伝子協 HP 掲載したことが報告されました。その他生物についても今後拡散防止措置例が HP 掲載予定です。実験計画書書式・審査検討ワーキンググループについては、遺伝子組換え生物等に該当しないゲノム編集生物に係る手続きに用いるモデル様式が示され説明が行われました。将来構想ワーキンググループについては、会員の意見を基に、今後の組織像について案の作成を進めることが説明されました。

- 5) H30 年度の決算について説明が行われました。2019 年度会計中間報告が行われました。
- 6) 2020 年度の事業計画、予算案が示されました。教育教材（アニメーション）や孢子形成生物拡散防止冊子の作成などを行うことが説明されました。
- 7) 全国大学等遺伝子研究支援施設協議会の将来構想について、では、沿革、現状の問題点分析、今後の総会スタイルについての意見、将来の姿についての意見、が紹介され、「大学遺伝子協の改革の方向性」の提案が行われました。
- 8) 次回安全研修会は、2020 年 7 月 25 日（土）神戸国際会議場で開催予定です。
- 9) 次回当番校は、佐賀大学（第 36 回総会）の予定です。第 37 回（令和 3 年度）は沖縄科学技術大学院大学の当番が予定されています。

その他として、大学連携バイオバックアッププロジェクト（IBBP）の紹介が行われました。近年自然災害が頻発するようになり、貴重な試料が失われる事例も発生しています。もしものときのために IBBP を活用してバックアップを確保してほしいとのことでした。

遺伝子組換え実験安全研修会「ゲノム編集生物の各機関での取り扱いについて」
（11月9日、土）

1 「遺伝子組換え生物に該当しないゲノム編集生物の取扱いルールに関するアンケート」について

事前に行われた表記アンケートの結果と分析が説明されました。

2 各機関での取り組みについて

遺伝子組換え実験安全管理規則等を改正している機関、運用のための申し合わせ等の改正あるいは作成を行っている機関、実験計画書の書式を改訂している機関、などの紹介が行われました。細胞外で加工した核酸残存確認の方法などが議論されました。

(中川)